



高槻ロータリークラブ

2017~2018

WEEKLY BULLETIN

四つのテスト

- I. 真実かどうか
- II. みんなに公平か
- III. 好意と友情を深めるか
- IV. みんなの為になるかどうか

事務所 オーロラモール高槻西武6階 〒569-1116 高槻市白梅町4-1
 TEL 072-683-1158 FAX 072-683-1174
 E-mail takatsuki.rc@bird.ocn.ne.jp
例会日 毎週水曜日 12:30~13:30
例会場 オーロラモール高槻西武6階 多目的ホール TEL 072-684-5379
創立 1954年6月15日
会長 浜田厚男 **幹事** 橋本憲治 **クラブ運営委員長** 馬淵晴彦 **会報担当副委員長** 藤田貴子

No.17 2017年11月1日発行

11月はロータリー財団月間

第3095回 本日(11/1)の例会

- ◎ 国歌・・・君が代
- ◎ ソング・・・奉仕の理想
- ◎ 誕生・結婚・入会記念月御祝
- ◎ 創業記念月御祝
- ◎ 外部卓話
「米山奨学会について」
千里 RC 会長 古城 紀雄 様
- ◎ 例会前の行事
11月度定例理事会 11時より

第3096回 次週(11/8)の例会

- ◎ ソング・・・四つのテスト
- ◎ 卓話・・・片山 美智子 君
「女性会員とその歴史とあゆみ」
西本 恵美子 君
「 」

11/15 例会後 第2回情報集会 (於: 例会場)

◎10/25 出席報告

会員数	出席者数	出席率
54名	41名	83.67%
前々回例会補正後出席率		98.08%
但し、Mup 4名		欠席者 1名
出席規定適用免除有資格者		2名

11月度 記念月御祝

- ◎ 誕生記念

岩井 祐造君	川面 智義君
西本恵美子君	浜田 厚男君
小山 彰夫君	
- ◎ 結婚記念

奥田 晴基・妙子御夫妻	53周年
田渕 謙二・一重御夫妻	31周年
浜田 厚男・寿絵御夫妻	29周年
- ◎ 入会記念

奥田 晴基君	19周年
光本 智輝君	1周年

11月度 創業記念月御祝

- | | | | |
|--------|-------------|------------|------|
| 藤松 功治君 | マス星自動車(株) | S.38.11 | 54周年 |
| 井前 憲司君 | 井前工業(株) | S.45.11 | 47周年 |
| 飯島 勝己君 | 三井住友信託銀行(株) | S.47.11.20 | 45周年 |
| 片山美智子君 | 環境機器(株) | S.48.11.1 | 44周年 |
| 伊藤 智秋君 | (株)エス・ジー | H.3.11.7 | 26周年 |
| 松尾 浩君 | (株)セラフィー | H.4.11.30 | 25周年 |

先週(10/25)の例会から

◎ビジター・ゲスト 計 0名

◎会長の時間

言霊（ことだま）

日本には言葉に魂が、宿るとよく言われます。たとえば、ネガティブな言葉を使うと、負の魂が宿ります。大変だ、だめだ、できない、無理、疲れた、しんどい、いやだ、嫌いだ、等々、こんな言葉を使うと本当にそんな魂が宿り、よりいっそう負のスパイラルを生むこととなります。

反対に、アクティブな言葉、すばらしい、たのしい、おもしろい、好きだ、充実している、気持ちいい、きれいだ、と言うような言葉を使うと、自然に楽しい気持ちになり、何でもできるような気持ちになります。

皆さんも試してください。私なんかロータリーの会長ってなんて楽しいんだと毎週、例会前に思っています。効果があるように思います。

今、会長エレクトが次年度の役員をお願いしているころかと、思います。お願いされたら、なんてやりがいのある仕事をいただいてすばらしい次年度が過ごせるんだと思って、「イエス」をお願いいたします。

本日はすばらしい会長の時間をいただき幸せです。

◎幹事報告

・高槻3RC 新年合同例会の開催のご案内をいたします。回覧を回しますので、ご出欠の回答をよろしくお願いいたします。

【日 時】2018年1月11日（木）18:30～

【場 所】例会場

【ホスト】高槻西 RC

◎委員会報告

○IM実行委員長

朝倉通憲

来年2月17日（土）開催のIM2組ロータリーデーのプログラムも決まり、お手元にお配りしたIM案内チラシもできて、2組の各ロータリークラブに案内を発信しました。チラシのこのIMのテーマの「奉仕を通して人々の人生に変化を」は、事務局の濱田さんが書いた文字で、チラシのレイアウトも協力してもらいました。

生命誌研究館の中村桂子館長に「人間として生きものとして生きる」をテーマに講演していただきますが、生きものとしての人間を捉え、人間の活動として大事なことは、まず生きること、これを基本に、生きる、重ねる、考える、耐える、愛する、語ると続け、中村先生の著書「ゲノムが語る生命」の中で言われています。生命誌研究者のお話ですのでとても有意義なお話です。

プログラム中には、各クラブから自慢の「わがクラブの一押し奉仕活動」のプレゼンを企画しましたが当クラブからは「子どもたちの心を育む、いのちキラキラ食裁活動」をプレゼンする予定です。このIMは、いずれも「人」、「いのち」、「変化」がキーワードとなるロータリーデーになるのではないかと思います。

今後は、プログラム内容のシュミレーションを描き、そのための準備を含めた役割分担のもと万全の体制で臨みたいと思います。

このIMの前の午前中に、フレッシュロータリアン研修交流会が開催されます。5年未満の方を対象とし、2組の近藤ガバナー補佐主宰のものです。高槻西、高槻東と高槻ロータリークラブが後援します。対象となる会員はぜひ参加してください。

○クラブ研修委員会

朝倉 通憲

今年度2回目の情報委員会を開催します。回覧を回しますが参加くださるようご予定ください。

11月15日（水）の例会後、13時40分ころから14時30分ころまでを予定しています。この例会場で行います。

今回は、フォーマル形式のパネルディスカッションとする計画をしています。

テーマとして広く「ロータリーの親睦とは。奉仕とはどういうことか」について自分の考えていること、言いたいこと、わからないこと、また疑問に思うことなど自由に話していただく討論会の場にしたいと思います。何を言っても委員会です。気軽にご参加ください。

パネラーは4、5人でいいかと思いますが、コーディネーターは研修委員会が務めます。パネラーとして参加していただける方とは、前もって進め方をご相談したいと思います。ぜひご参加をお願いします

◎卓話 日本の精神風土とロータリー

（クラブ活動は何のためなのでしょう）

本多 了

◎まずは、ロータリークラブ活動とは、を自分なりに考える

今ここに集う私達として、日本のロータリークラブ活動と私達の職業人生のありようを考えてみましょう。このことが、活動の根本であります職業奉仕の大切さに気づききっかけだと思います。職域を代表して集うロータリークラブとは私達にとって何なのか、その理念を意識しての例会なのかが問われねばならないでしょう。

世界的組織のもと、各地域のクラブが道徳的規範のもとに歴史や伝統を培いつつ、私達は親睦と各種の奉仕活動をしているつもりです。内容と程度にもよりますが、どれほどの充実感をもてるのでしょうか。

現実問題として、私達は大切な仕事時間、実質約2～3時間を毎週、例会のために費やしているのです。仕事場の職場の仲間や部下などの眼もあります。職場、職域の皆さんの役立ちになっていきますでしょうか。大切な仕事時間を割くだけの意義をどのように納得されていますでしょうか。

地域の親睦クラブ、奉仕クラブも意義はあるでしょうが、例会卓話を話題にして交流しあい、自分達の事業や自分自身を観詰め、品格、人格、人財づくりの結果として、広く社会にお役立ちする事が根本の目的なのだと考えます。それでこそ、職域やクラブでの未来世代への見えない恩送りの恩返しが可能なのでしょう。

◎卓話がクラブ活動の「いのち」

クラブ活動の中核である例会での卓話を交流し、ハツと気づき（ハウツウ的でなく、本質的）、それを職域に持って帰り、自分づくりをしつつ、部下や周辺の人財づくりに役立てることでしょう。それには、単なる知識や情報のみではなく、自分の考えや職業人生観が感じられる智慧の卓話こそが重要でしょう。

クラブ活動の根本は、クラブの伝統的なしきたりや例会規範を維持向上しつつ例会での卓話を最重視する。日本の精神風土を抛り所として、自分の人生観や自分の職業観を語り合う。持って帰り事業内の人財づくりに役立てる。職場や関連職域が育ち繁栄し、商品やコトやヒトを通じて広く社会にお役立ちの布施、奉仕する。結果を更に卓話で語り合う。クラブ活動の魅力の第一はこのことに尽きると思います。

近年は単に増員目的、退会防止目的のために、上部組織で各種の規制を緩め、日本のクラブとしての品格維持向上が軽んじられている風潮が甚だしい傾向にあります。本末転倒です。

先人から伝えられてきた各種の品格水準が衰退しつつあり、根本を観詰め直すと共に、ビシッとされた例会規範のもとでの、魅力的で、是非聞いて、味わって帰りたい卓話（極力交流できる卓話の仕組み）が必要でしょう。

◎永年培われてきた日本の精神風土を想起（神仏儒の多神教的日本教精神）。

ロータリークラブがアメリカのキリスト教的奉仕精神の風土で生まれ全世界規模になってはいますが、私達にとっての基本は日本の地域のクラブなのです。日本人による日本のクラブとして、伝統や歴史による品格や活力は、古来の日本の文化や文明に根ざしている精神がこの根幹にあることが必要でしょう。

service=奉仕 という言葉は、ロータリーでは当たり前のように大事な用語とされています。日本語の奉仕とは、奉る、仕える。主人に奉公、国に滅私奉公、勤労奉仕などで定着してきた言葉です。本来の日本の精神文化としては、奉仕よりも「布施」。平易には「役立ち」でしょう。

「布施」には、カネやモノよりもココロの布施（心からあまねく施しをする）が重んじられ、モノやカネ以上に、財がなくても「無財の七施」（眼、和顔、心、身、言辞、床座、房舎の七施）が重視されてきました。それは、武士道にもありますが、情緒と形を重んじ自然や弱者への「惻隱の情」、全てのヒト、モノの「いのち」への深い慈しみの思いやり、「慈悲心」（慈しみと哀切）であり、その結果としての「お陰（蔭）様」の心です。

私達の周囲の全てのモノ、コトには、見えるものと見えなくなっているものがあり、二つで一つです。

通常は見えるものだけを見ているのですが、見えないものこそが大事です。今は既に会えない、見えないが、陰の存在として、私達に多大の恩恵を与えて往かれた「お陰様」による「ご恩」が息づいているのです。

そのご恩に対して、太らせて、未来世代に心からのお返しすることが、日本の精神の布施、役立ちでしょう。

また、日常的に最もよく使っている「有難う」は滅多に有ること難き「いのち」への感謝からきた言葉です。折角頂き合った「いのち」を慈悲の心で育みあうことは「いのち」のご恩に報いる生き様に不可欠です。

それは、単なる感謝ではなく、次世代に「恩送り」という恩に報いる「報恩感謝」の心です。

英語でいうところの相手への「thank you」とは全く異なる重いものです。ご先祖から偶然に生まれ継いでこれた結果に、まさに「有ること難し」の「いのち有り難う」です。このお陰様によるご恩を自分なりに太らせて、未来世代にバトンタッチしていくことが大切な恩送りの恩返しなのでしょう（縦の「いのち」の連続性）。

「恩」という字は因果、物事の原因の因に心と書きます。因と果は様々な縁で繋がり因縁果。「恩」は中国や欧米にはない思想であり、古いインド仏教の思想として、日本に入ってきたものといわれています。

「恩」はインド語では「クリタ・ジュナ」。「クリタ」は過去の人達によって為されてきた事。

「ジュナ」は、そのコトやヒトが今は見えないが、それを知る事です。

つまり、「恩」とは、今は陰の存在としてこの眼で見ることができないが、かつては先人によって、為され、作られ、語られてきた慈しみの心に気づいて深く感謝し合う心です。この思想のもとで、過去のヒトによるコトやモノ、見えない大いなるイメージなどを人格化して、「様」の敬称をつけた感謝の表現が「お陰（蔭）様」です。

また、俗にいう「すみません」を、相手の人に安易に使っていますが、過去に受けてきたご恩に対して恩返しや恩送りができていない、済ませていないことが「済んでいません、済みません」の恐縮した表現でしょう。最近も発覚した法令違反や隠蔽等の企業不祥事は、「お陰様」を忘れ去ったとんでもない「済みません」です。

以上のように、先人の為されたコトを太らせて、未来世代や地域の次世代に対して報恩の恩返し、恩送りとして橋渡しの布施、奉仕をしていくのが、今を生きる私達の最も大事な役割でしょう。

職域や家庭や地域の集団、広く日本社会に永年定着してきた先人達の思いや為されたことを繋ぐ日本人の心です。

◎恩のお陰様に気づいて活動

まさに、人生そのものに対して重要なことであり、クラブ員各自の事業活動そのものでもあるでしょう。

現代日本社会は、なんととってもモノが豊かであり、このような大切な日本の心、日本文明が衰退しています。ロータリークラブ活動における日本文明の規範もかなり緩んでいるのではないのでしょうか。

今を生きる私達は、この心を私達日本のロータリークラブの理念として、軸心として活動したいものです。

各自の事業社会への役立ちと共に、クラブとしての品格が滲み出て、人財群づくりをし、その人財の塊のもとで、結果として、上部組織で活動するガバナー等をも輩出し、地区に、そして広く社会にお役立ちできるクラブ活動にしましょう。

日本の精神風土として、今は見えないご恩やお陰様からの報恩感謝にハッと気づき、自分の人生観や死生観を培う事の大切さを心の底から強く認識して、職場や家庭での自己づくりで、周りの人づくり、職場づくりに、そしてクラブの品格づくりに、活き活きワクワクと、恩送りをしつつ生きあいましょう。

日本文明のご恩やお陰様意識がクラブの規範を維持し、品格も育つものです。

先人から未来世代に繋ぐ報恩意識で、自分を語る卓話を軸にした、中味の濃いワクワクと出席したくなる例会に努め合いたいものです。

このような基本的に非常に大切なこと、時代の風潮が変わっても変えてはならないものを維持していくために、クラブの長老年輩者が、敢えて、役立ちのために言い遣すことが大事だと考えます。

なお、これらの延長線上での例会以外での社会奉仕や国際奉仕などの諸活動も重要です。

近年は核家族が当たり前になってはいますが、子供の頃から「いのち」の尊さや大切さ、お陰様の心を、社会で、家庭で躰ける、親子で気づいてもらうための「いのちキラキラ食裁活動」などの私達の社会活動は、広く次世代の心を育むための重要な役割の一つとして大変意義あることでしょう。

この国の精神風土を観詰め直し、例会卓話を軸に、先人達によって培われてきた私達の事業社会やロータリークラブに根付く「恩のお陰様」による報恩感謝に気づきなおして、次世代への役立ち、奉仕、布施としての活動、そして、心豊かな人生を送り合いましょう。

◎卓話

「青少年奉仕と危機管理」 内本 繁

危機管理について一昨年度の地区の青少年合同会議のプログラムの1つとしてあげられていました。また、先月、近藤ガバナー補佐がクラブ協議会に来られた時、本年度の青少年奉仕の事業計画を発表した際に危機管理について少しふれられました。

今後、当クラブが高槻中学・高校インターアクトのスポンサークラブとしてより具体的に支援していくことについて、先週、小阪青少年奉仕委員長からスポンサークラブとしての関わり方について話されましたが、この危機管理についても知ったうえで対応していくことが必要と思い、今回のテーマとしました。

R I は青少年交換学生が過去に性的虐待やハラスメントなどの事件があったことにより青少年交換プログラムに関してたいへん重要視しています。青少年と接する際の行動規範に関する声明、青少年プログラムのための危機管理、性的虐待およびハラスメントの防止などです。

地区もそれに準じて危機管理委員会を設置し、2014年5月に危機管理規定を制定しています。

本規定では第2条の定義でロータリアンにとって「好ましくない事態の全て」を危機管理の「危機」とする、となっています。特に第3章の青少年プログラムに対する特別規定では青少年プログラムに対する地区の責務、地区委員長の責務、危機管理委員会の業務や青少年の保護について定めています。また、具体的に地区の緊急連絡網はじめ事故・病気等の緊急対応、自然災害・テロ等の緊急対応、製紙幼年が加害者になったときの危機管理対応、虐待とハラスメント申し立てと報告の処理手順、ボランティアの選考と基準を通して「危機」についての防止・解決のため対処方を示しています。

そして、R I は青少年保護法の順守を怠った場合について、ロータリー関係の青少年プログラムに関与し、青少年保護に関する法律に違反した会員に対する申し立てにクラブが対処しなかったという情報を得た場合、理事会はR I 細則第3.030.3項に従ってこのクラブの加盟を停止または終結させることができる、とたいへん厳しい処分が課せられることになっています。

今後、当クラブの活動全般における危機管理はもちろん、特に青少年奉仕プログラムにある青少年交換やインターアクトなどについてはこの規定を踏まえて対応するように心がけなければならないと思います

詳細については、別添の資料をご覧ください。
ありがとうございました。

◎ニコニコ箱報告

- ・本多さん、すばらしい卓話ありがとうございました。
浜田君
- ・卓話を聴いて頂いて。
本多君
- ・ブキビントン RC さん、充分楽しんで帰ってもらったようです。我々も段々対応の仕方が判ってきた気がします。
井前君
- ・前回の例会休みを頂きました。卓話ありがとうございました。
石田君
- ・10月度受付担当委員会の皆さんへ お世話をおかけし、ありがとうございました。
河合君
- ・石田さん、先週の例会写真をwebにアップして頂きありがとうございました。先週の写真は長山さんと大木が撮りました。
大木君
- ・卓話を聴いていただいて。
内本君

本日の合計	¥ 35,000-
7/1 よりの累計	¥986,000-

◎R 財団への寄付

井前 憲司君	¥5,000-	石田 佳弘君	¥5,000-
河合 一人君	¥5,000-	内本 繁 君	¥5,000-

本日の合計	¥20,000-
7/1 よりの累計	¥420,000-
一人当たり平均	\$ 73.53



10./25 卓上花

ミニカーネーション
(集団美)
ワックスフラワー
(気まぐれ)